

新専門医制度 膠原病・リウマチ内科領域

「今村総合病院 膠原病・リウマチ内科
専門研修カリキュラム」

専門研修プログラムの概要

膠原病・リウマチ内科に関連する標準的な問診・診察技術、鑑別疾患、病態や最新治療について学ぶ。入院・外来において患者に寄り添った診療を行い、主治医感を育成するプログラムである。専攻医は本カリキュラムに基づいた研修を行い、最終目標として膠原病・リウマチ内科領域専門医の取得を目指す。

専門研修はどのようにおこなわれるのか

基本領域は内科領域であり、サブスペシャリティ領域として、膠原病・リウマチ内科の連動研修が可能である。当院総合内科で内科専門研修を行いながら、入院・外来においてリウマチ性疾患を主に担当する。他院でのローテート研修についてもフレキシブルに対応する。

専攻医の到達目標

修得すべき知識・技能・態度など

- ①膠原病・リウマチ内科領域の専門知識 病因、病態、最新の治療について経験し、説明することができる。医療面接に基づいて必要な鑑別疾患を挙げることができる。診断のために必要な検査を計画し、目的や結果について患者に適切な説明を行うことができる。患者や家族、他職種と相談しながら治療目標を設定し、治療や説明を行うことができる。
- ②専門技能 一般的な内科診察のほか、リウマチ性疾患に特徴的な問診・診察・関節エコーを習得する。膠原病・リウマチ内科領域における整形外科的手術、処置について説明することができる。

各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得

日本リウマチ学会学術集会、基本領域学会の学術集会に定期的に参加し、最新の知識を得ることができるよう努める。日常の臨床疑問に関して、自ら文献検索・学習を行い、生涯学習に努める。症例報告や学会発表を積極的に行う。初期研修医に対する教育を行い、他科の医師やコメディカルとも専門知識を共有することができる。

学問的姿勢

- ①教育活動 学生、初期研修医、後輩専攻医に対する指導を行う。メディカルスタッフに対する勉強会を行う。
- ②学術活動 膠原病・リウマチ内科領域疾患に関する学術発表を積極的に行う。院内・院外への症例検討会や講演会に参加する。

医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性

患者を中心に家族や他職種と関わっていく中で、主治医としての役割を果たすことが求められる。入院から外来へ連続性のある診療を行うことで、主治医としての責任感を深める。患者ごとに異なる背景・生活環境に関して理解し、個々に応じた診療が求められる。

施設群による研修プログラムと地域医療についての考え方

年次毎の研修計画

連動研修を行う場合は、1年目に当院総合内科において内科専門研修を行う。

- ①専門研修1年目 リウマチ性疾患の入院患者を担当し、指導医と共に退院後の外来診療を受け持つ。外来初診患者の予診を担当し、指導医の診察に同席してフィードバックを受ける。リウマチ版J-OSLERに登録し、バランスよく症例を経験できるようにする。
- ②専門研修2年目 1年目に引き続き入院・外来で症例を多く経験する。連携施設において関節リウマチの外来研修や整形外科のローテートを行う。
- ③専門研修3年目 専門医取得に必要な症例数を確認し、不足している部分については連携施設での研修も行う。専門研修開始半年後からは連携施設での研修も可能とする。連携施設での研修期間については相談の上、決定する。整形外科へのローテートは最低3ヶ月行う。

研修施設群と研修プログラム

連携施設 ①鹿児島赤十字病院 ②東京医科歯科大学附属病院 ③多摩総合医療センター それぞれの病院において、当院では経験できない整形外科の手術や、異なる医療圏での診療を学ぶ。東京医科歯科大学附属病院では、最低1年間は大学での研修を行う。

地域医療について

当院での研修では、鹿児島の離島や遠方からの患者も多く来院するため、近医との連携が必要である。また、鹿児島においてはリウマチ内科医が少ないため、非専門医との連携が円滑に行えるよう努める。県内のクリニックで治療を受けている患者において、リウマチ性疾患の急性増悪、合併症などにより入院が必要となった場合に果たす役割も大きい。慢性疾患の外来診療だけでなく、地域の総合病院として急性期の診療も経験することができる。

専門研修の評価

担当指導医がリウマチ版 J-OSLER を用いて、症例経験と病歴要約の指導・評価・承認を行う。定期的に面談を行い、それぞれの希望に沿った研修計画を組み立てるとともに、研修の到達度を確認する。

修了判定

専門医として経験すべき症例を十分診療できているか、医師・社会人として適正かどうかを指導医が判定する。リウマチ版 J-OSLER への登録が終了していることを確認後、基幹施設である今村総合病院において研修管理委員会で修了判定会議を行う。

専門研修管理委員会

専門研修プログラム管理委員会の業務

基幹病院である今村総合病院において、専攻医の研修・管理を行う。基幹病院の研修委員会から連携施設へローテートや研修内容について連絡を行う。研修委員会においては、膠原病・リウマチ内科領域の指導医が委員長として責任を負うものとする。

専攻医の就業環境

労働基準法を遵守する。専攻医が心身ともに健康な状態を維持し診療に当たることができるようサポートする。

専門研修プログラムの改善

少なくとも年に 1 回は専攻医へアンケートや聞き取りを行い、プログラムにおける問題点や改善してほしい点について情報を収集する。研修管理委員会を中心として、研修環境の改善に努める。

専攻医の採用と修了

基幹施設において、応募した専攻医と面談を行い、研修管理委員会において採用を選考する。

研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件

疾病、妊娠・出産においては、休職が 6 ヶ月以内であれば研修期間の延長は不要とする。（これを超える場合は研修期間を延長して対応する）留学期間は、原則として研修期間として認めない。連携施設以外で研修を行う場合、移動後の研修管理委員会の了解を得た上で、専攻医としての継続的な研修を可能とする。カリキュラムの中断・移動については研修委員会の承認を得るものとする。

研修に対するサイトビジット（訪問調査）

基幹施設・連携施設において、必要とされる場合にはサイトビジットを受け入れる。

専門研修指導医

伊藤 加菜絵（今村総合病院）部長 松田 剛正（鹿児島赤十字病院）名誉院長 大坪 秀雄（鹿児島赤十字病院）副院長 保田 晋助（東京医科歯科大学附属病院）教授 長谷川 久紀（東京医科歯科大学附属病院）講師 島田 浩太（多摩総合医療センター）部長

基本領域とサブスペシャリティ領域との関係

膠原病・リウマチ内科領域は、内科領域の上に位置づけられる。内科領域の専門研修終了後、あるいは今村総合病院の内科プログラムを1年修了した後に、サブスペシャリティ領域として膠原病・リウマチ内科領域専門研修を開始することができる。膠原病・リウマチ内科専門領域としての基本的な研修期間は3年間とする。内科領域と連動研修を行なった場合、修了要件を満たせば最短4年間での研修修了となる。

応募資格

医師免許資格を有し、かつ初期研修プログラムを終了もしくは終了見込みの者

募集人数 2名

応募方法

採用予定年度の募集期日までに、下記問い合わせ先へメール・電話にて申し込みを行う。

募集期間 通年

問い合わせ先

電話：099-251-2221（代表）総務課 担当：松ヶ野 佳子

メール：yoshiko.matsugano@jiaikai.jp